

滋賀医科大学医学部附属病院機能強化棟(E棟)完成



機能強化棟



1階 待合・廊下



3階 救急集中治療室



1階 救急処置室

滋賀医科大学(大津市)が同大学敷地内で進めていた医学部附属病院機能強化棟(E棟)が完成した。県内唯一の特定機能病院として多様化する地域医療のニーズに対応すべく、放射線治療部門や光学医療診療部門を拡充することにも、将来的な高度救命救急センターの指定を視野に入れた、救急部門の機能を強化。臨床研究開発センターの集約化による高品質な臨床研究の推進も図る。設計・監理は同大学施設課と内藤建築事務所、新日本設備計画、施工は大鉄工業、北陸電気工事、柳生設備が手がけた。

救急医療を支える中核拠点

滋賀医科大学
医学部附属病院長

田中 俊宏



生命と健康 最前線で守る

滋賀医科大学医学部附属病院は、滋賀県内唯一の医療機関ならびに特定機能病院として、優れた医療人の育成と地域医療の「最後の砦」という重責を担ってまいりました。それらの機能をより一層強固なものとし、高度急性期医療をさらに推進するため、2022年5月から「機能強化棟(E棟)」の整備を進めてまいりましたが、このたび、2026年3月に完成し、同年4月に全面稼働の運びとなりました。

機能強化棟(E棟)の整備における最大のポイントは、「救急医療機能の強化」です。

当院はこれまでも、他院での対応が困難な重症救急患者を積極的に受け入れ、滋賀県の救急医療を牽引してまいりました。その一方で、多発外傷に対応する初療室の不足など、設備・体制面での課題も抱えていました。今回の整備では、将来的な「高度救命救急センター」の指定も視野に入れ、多発外傷や高度熱傷といった複雑・重篤な症例にも対応可能な最新の設備を導入します。また、医療機関として救急医療を担う人材の育成拠点としての機能も拡充し、滋賀県の救急医療を支える中核拠点としての役割を果たしてまいります。

その他にも、放射線治療部門のリニューアル、光学医療診療部(内視鏡治療等)の機能拡充に加え、次世代の医療を創出するための研究支援体制を強化するなど、2012年の再開発以降の懸案事項と、近年の医療ニーズの変化に対応できる体制を整えます。

今回の機能強化棟(E棟)の完成は、当院にとってのゴールではなく、滋賀県の医療の未来を切り拓く新たなスタートです。当院は、これからも滋賀県における医療の「最後の砦」として、地域の皆さまの生命と健康を、最前線で守り続けてまいります。



3階 病室(4床)



全景

工事概要

- 工事名: 滋賀医科大学(医務)機能強化棟等新設その他工事
- 工事場所: 大津市瀬田月輪町(滋賀医科大学構内)
- 発注者: 国立大学法人滋賀医科大学
- 設計・監理: 国立大学法人滋賀医科大学施設課、(株)内藤建築事務所(建築設計)、(株)新日本設備計画(設備設計)
- 施工者: 大鉄工業(建築)、北陸電気工事(電気設備)、柳生設備(機械設備)
- 階数: 地上5階
- 構造: SRC造
- 建築面積: 2,677.84㎡
- 延床面積: 10,335.80㎡
- 工期: 2022年5月13日～2026年6月30日
(機能強化棟は2026年2月28日完成)

地域の最後の砦に

施工のポイント(建築)

綿密な計画で安全と品質を確保

建設現場は滋賀医科大学の敷地内。医療技術の高度化と増大する医療需要への対応に向けた中核機能を担う「病院機能強化棟」の新設工事がメインとなる。隣接する既存病院の機能を維持しつつ、工事を2工区に分割し段階的に整備を進めた。現場を指揮した大鉄工業の西森所長は各種動線の確保や振動・騒音対策に細心の注意を払い、安全最優先で工事を展開。足掛け4年に及ぶ工事を無事完遂した。

工事は2022年5月にスタート。1工区完成後、既存の高エネルギー治療施設などの解体工を経て、24年8月に2工区の建設へと移った。

特徴的な施設機能の一つが1工区で整備した高度放射線治療を行うリニアック施設だ。外部への放射線漏えいを防ぐため、室内の三方を厚さ約1.5mの遮蔽壁で囲む構造を採用。コンクリート内部には厚さ500mm、総重量530tに及ぶ鉄板を組み込んだ。西森所長は「鉄板を支える仮設柱や控えフレーム、型枠支保工などの仮設計画に最も時間を要した」と振り返る。綿密な打設計画に基づき精度管理を徹底し、密実で高精度なコンクリート打設を実現した。

既存棟との接続工事では、仮設防音壁の設置に加え、低振動・低騒音の工法を積極的に取り入れた。安全対策ではドクターヘリ離着時に作業を中断し、入学試験などの学校行事開催時には作業を中止。工事車両の搬出入時間を制限するなど第三者災害の防止を徹底した。

西森所長は「長期に及ぶ工事を大きな事故なく無事竣工でき、安堵(あんど)している。工事に関わった関係者のおかげだ」と感謝の言葉を述べる。

施工のポイント(電気設備)

既存施設への影響、安全に配慮

「これほど大規模な医療施設の新築工事に携わるのは初めての経験だった。社内経験者から助言をもらうなど、万全の準備で工事に臨んだ」と話すのは北陸電気工事の長谷川雄大所長。現場運営では「安全」「品質」「工程」「原価」の四つを基本方針に掲げ、若手が自由に相談できる風通しの良い職場環境づくりを心掛けた。

安全対策では毎日の晨礼での入念な調整や危険箇所の事前の洗い出し、危険予知活動(KY活動)を徹底。工事区画はカラーコーンで明示し、危険箇所には注意表示を行うなどの対策も強化した。現場では輻輳(ふくそう)して進む建築工事に影響を与えないよう、工程や作業エリアの調整を詳細に打ち合わせ、円滑な施工と安全確保に努めた。こうした取り組みの結果、全工期を通じて無事故・無災害を達成した。

建物へ電気を送るために既設の変電所から約400mにわたりケーブルを敷設した。また、災害時に病院の機能を維持できるように、大容量のUPS(無停電電源装置)も設置した。工事期間中は、稼働中の既存建物の配線や設備への影響に特に注意を払った。

長谷川所長は「一歩間違えれば命に関わる重大事故につながりかねない環境だった。ヒヤリハットや勘違いを防ぐため、とにかく確認の徹底に努めた」と振り返り、「発注者との連携も密に行い、良好な関係を築くことができた」と安堵の笑顔を見せた。

設計コンセプト

拡張性と医療継続性確保

滋賀医科大学医学部附属病院は、安全で質の高い医療の提供、優れた医療人の育成、先進的医療の研究開発に取り組み、滋賀県内唯一の大学病院である。2011年の再開発整備から15年が経過し、医療ニーズや急性期・救急医療を取り巻く状況の変化への対応が課題となっていた。

機能強化棟(E棟)は、救急・集中治療部、消化管内視鏡検査等を行う光学医療診療部、放射線治療部(リニアック2台)を強化し、高度な医療の提供や患者環境の改善と医療収益の向上を目的とし整備を行った。

また、臨床研究開発センターを拡充し、新たな医療の研究推進の場を整備するとともに、病院スタッフの自己研鑽スペースの新設、医療情報部の強化を行い、今後の病院を支えるソフト・ハード両面の基盤を整備した。

機能強化棟の整備は、将来の更なる発展に繋がる大変重要なプロジェクトの第一段の計画である。平面プランは既存棟と機能的に接続するシンプルなL型とし、各階の廊下端部をオープンエンドとすることで、拡張性と再々整備時の医療の継続性を確保し、将来的に骨太の医療動線が構築される計画とした。

機能強化棟の整備により、特定機能病院として質の高い先進医療と新たな医療技術の開発、医療機関としての教育的機能の充実に図られた。また、今後の建替え計画も踏まえ、次世代に繋がる整備を実現している。

株式会社内藤建築事務所



大鉄工業株式会社

大阪市淀川区西中島 3-9-15
電話 06-6195-6101

電気設備工事



北陸電気工事株式会社

大阪支店

大阪市天王寺区玉造本町7番19号 電話 06-6765-6035

設計



株式会社 内藤建築事務所

ARCHITECTS

京都市左京区田中大堰町182 電話 075-781-4111